

9月の災害

胆振東部地震発生から災害対策本部の廃止まで

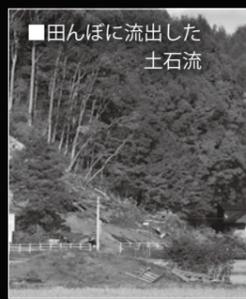
9月5日。台風21号による暴風の影響で、市は、市内全域での倒木などの被害対応に当たっていました。翌6日3時7分、胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震が発生。そして、全道規模の大停電。今月の《第1特集》として、地震発生から9月20日付け災害対策本部廃止までのできごとを記録します。



■厚真ダム方面を眺めた景観。土砂崩れで山肌が露出している。

各地に大きなたつめ跡を残した9月6日の地震

写真は9月14日厚真町で撮影



■田んぼに流出した土石流



■農道に生じた地割れ

▼9月5日/台風21号による千歳小横道での倒木。2日前まで祭の出店が並んでいた場所。



▼9月6日/震災後の停電により、市内すべての信号機の機能が停止した。



▲災害対策本部会議は、9月6日の設置から20日の廃止までの間に計13回開催。市の各対策部、千歳警察署、陸・空各自衛隊、千歳航空基地、札幌管区気象台などの関係機関が出席し情報共有を図った。



▲9月7日/道の駅店舗の皆さんによるおむすびの炊き出し。売り上げは全額、復興のため社会福祉協議会に寄付された。



◀▼空の便の欠航により足止めになった多くの道内観光客のため《観光客用避難所》を開設。通訳には、千歳ボランティア通訳クラブや千歳観光連盟の協力を得た。



■《観光客用避難所》となった公民館



■9月7日/文京シマウマ公園

▲一部、マンションの受水槽からの断水が生じ、住人の多くが公園などでの給水を余儀なくされた。



■9月7日/イオン千歳店

▶▼災害発生後間もなく事業者の努力により一部営業を開始したスーパーやガソリンスタンドなどには、長蛇の列が生じた。



■9月7日/スタンドまで1km以上の渋滞が生じた末広高台通

千歳のおもな被害状況

※9月20日現在とりまとめ分

項目	被害の概要
人的被害	死亡：0人 負傷：11人（軽傷）
建物被害	全壊・半壊なし 《り災証明発行件数》 台風34件・地震109件
道路・橋	・協和第2道路に亀裂（段差約7cm・幅約8cm、長さ約170m）
電気	地震発生直後から停電 9月8日1時21分には市内全域で完全復旧
水道	水道管の損壊などはなし 貯水槽のある建物では停電のため断水状態が発生
ガス	ガスに関する損壊などはなし

※対策本部を廃止した9月20日現在の概要です。
※り災証明発行手続は納税課で受付中です。

かつて経験したことがない災害

気象庁が《平成30年北海道胆振東部地震》と命名した今回の地震は、内陸の深さ37kmで起きた、マグニチュード6.7（最大震度7）の直下型の地震です。国内で震度7を記録したのは6回目、道内では観測史上初めてのことでです。市内では、新千歳空港で6弱、市街地では5強となり、特に空港の被害は大きく、7日の9時に国内線が復旧するも、国内線4階までのビル内商業施設の営業再開（ホテル・温浴施設などの一部を除き）までには、おおよそ3週間を要しました。

だれもが学ぶことの多かった2週間

千歳は、震源地から35kmほどの近い位置にありながら大きな被害はなく、亀裂による道路封鎖も1か所にとどまる程度でした。市は、地震発生後、速やかに災害対策本部を設置し、職員を招集。自衛隊、警察などの防災関係機関と連携しながら対応しました。

しかし、活発な余震活動が続いたほか、北海道全域におよぶ大規模な停電が発生し、市内ほとんどの店舗、工場が休止となるなど、普段のあたりまえな生活が、突然、不自由になりました。水道管の損壊による断水はなかったものの、通電までの間、食事の調理器が使えなくなり、テレビやスマートフォンなどの容易に情報を得る手段も失われました。

ガスこんろや電池（蓄電器）など、家庭における災害備蓄品の見直し、避難所の確認など、だれにとっても学ぶことが多い経験になったと思います。

次なる災害に備えて今、用意しておきたい物

余震の頻度などはおさまりつつありますが、今後、同じ事態が生じないといえません。これを機に、日ごろから携行できる《0次持出品》、最初に持ち出す《1次持出品》、災害から復旧までの数日間を支える《2次持出品》を確保しましょう。

2次持出品	1次持出品	0次持出品
<p>■燃料・防寒具など</p> <p>■卓上こんろや予備用のガスボンベ、毛布、寝袋、洗面用具、使い捨てカイロなど</p>	<p>■非常食・水</p> <p>乾パンや缶詰など火を通さずに食べられるもの、水はペットボトルが便利</p>	<p>■携行品</p> <p>現金（10円硬貨も）、身分証明書、携帯電話・スマートフォン、筆記用具、ハンカチ、ティッシュペーパー、マスク、携帯食、飲料水、カイロ、ホイッスルなど</p>
<p>■水</p> <p>■飲料水（大人1人当たり、1日3リットルが目安）最低3日以上、ポリ容器にも水をためておく</p>	<p>■懐中電灯・携帯ラジオ</p> <p>懐中電灯（1人に1つ）、ラジオ（AM/FMの両方を聞けるもの）、予備の電池</p>	
<p>■食品</p> <p>缶詰、ドライフーズ、栄養補助食品、調味料など最低3日以上、食器類</p>	<p>■衣類・タオル</p> <p>防寒用の衣類、タオルは汚れのふき取りやケガの手当てなどに便利</p>	
<p>■救急医薬品</p> <p>傷薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬、常備薬は必須</p>		

最低でも3日以上以上の生活ができるよう、家族構成に合わせて用意しましょう



千歳市長
山口 幸太郎

9月6日に発生した北海道胆振東部地震で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様や関係者の皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

震源地の胆振東部地域では、今なお多くの方々が避難所での生活を余儀なくされており、1日も早い復旧、復興を切に願っているところであります。

また、この度の地震に際しまして、災害派遣をいただいた自衛隊の皆様やご支援・ご協力いただきました関係者の皆様、また、全国各地からお見舞いや温かいお言葉をいただきました多くの皆様に、心からお礼を申し上げます。

本市におきましては、幸いにも大きな被害はなく、地震発生から2日後の9月8日には市内全域で電力が復旧したため、避難所を閉鎖し、公共交通機関も順次運行を再開するなど、徐々に市民生活も平穏を取り戻してきたところであります。

市民の皆様におかれましては、これからの秋の行楽シーズンを迎えるにあたりまして、市内経済の活性化に向けて、これまでどおりの生活を送られますとともに、「元気な千歳」に多くの方々が安心して足を運んでいただけるよう、皆様方の応援をお願いいたします。

《観光客の皆様へ》～千歳市は元気です～

この度の地震では幸いにも本市に大きな被害はなく、交通機能や観光・宿泊施設についてもこれまでと同様に皆様をお迎えすることができます。

千歳川では遡上するサケが秋の訪れを告げ、支笏湖では紅葉が鮮やかに色づき、農村部では黄金色の輝きを放つ豊穡の季節を迎えます。

ぜひとも、多くの皆様に見ごろ食べごろ満載の千歳の秋をご堪能いただきたく、「元気な千歳」にお越しくださいますようお願い申し上げます。

「元気です！千歳市」動画配信中
市の観光PRサイト《ちとせの観光》では、市長をはじめ、支笏湖地区の皆さんや千歳市観光PR大使・水森かおりさんの応援メッセージ動画を配信しています。ぜひ、ご覧ください。
welcome-to-chitose.jp

私たちができること、すべきこと
現在もなお、建物の損壊や断水などの影響で、多くの住民が長い期間、不自由な生活を続けている被災地に、全国から災害ボランティアの皆さんが支援活動に訪れています。
千歳市社会福祉協議会で受けた《ボランティア保険》申請件数は9月25日現在で209件を数えました。

今回の災害を受け、私たちは、近隣市を含めた全道的な復興に向け、元気を出して、前へと進まなければなりません。そして、教訓から学び、自らの命を自分で守る力を、しっかりと身につける必要があります。
市は、今回の災害を教訓に、引き続き市民の皆さんの理解や協力を得ながら、防災関係機関などと連携し、《災害に強いまちづくり、ひとづくり》に努めます。

社会福祉協議会の活動

被災地へ向かわれるボランティアの皆さんにお願いします

事前に社会福祉協議会でのボランティア保険加入にご協力をお願いします。被災地の災害ボランティアセンターでの加入受付は、大変混雑しています。災害復旧作業に尽力している被災地の負担を少しでも軽減させるため、ご協力をお願いします。



千歳市社会福祉協議会ボランティアセンター
☎(27)2525
☎(27)2528
9月14日/安平町災害ボランティアセンター

平成30年 北海道胆振東部地震災害義援金
日本赤十字社では、今回の震災の義援金を、次の金融機関の口座で受け付けています。
【募集期間】平成31年3月31日(日)まで
銀行1 北洋銀行 札幌南支店 普通預金 4627670
北海道災害義援金募集委員会 会長 伊藤 義郎
北海道銀行 本店営業部 普通預金 3286280
北海道災害義援金募集委員会 会長 伊藤 義郎
銀行2 ゆうちょ銀行 00130-1-673591
郵便局 日赤平成30年北海道胆振東部地震災害義援金
千歳市社会福祉協議会事務局内
☎(27)2525 / ☎(27)2528



▲支笏湖温泉地区は、王子製紙の水力発電により1時間弱の停電ですみ、地震初日もホテルは営業を続けた。(写真は、支笏湖の無事・元気を伝えるPR動画から)

北海道の観光振興への影響は大きく、北海道経済部観光局では、「観光消費の影響額を推計すると約292億円となる」と公表しています。(9月15日)
市内でも、地震の被害がほとんどなかった支笏湖温泉地区をはじめホテルのキャンセルなどが相次ぎ、市内観光施設や土産店などの客足に影響をおよぼしています。
全道的な観光消費の状況を考えると、北の玄関口・新千歳空港を要するまちとしての役割や意義をあらためて思い知らされます。

韓国の方にも聞きました



カーヒャン・キムさん
キーヒャン・キムさん / 国籍：韓国
■地震のあった夜、私たちは札幌のホテルに宿泊していましたが、災害後はどこにも滞在できなくなりました。韓国大使館のホームページで千歳の避難所のことを知りました。ここでは、私たち海外旅行者にも親切にいただき、心から感謝しています。地震のときは1秒でも早く北海道を去りたいと思いましたが、今では、いつかもう一度訪れて、この旅行のやり直しをしたいと思っています。

今回の災害では、市民に対する支援活動のほかに、北海道に訪れた観光客の多くが、帰路の通過点などとして千歳に足をとどめたことへの対応が生じました。
市は、新千歳空港や鉄道などの交通インフラの機能停止により、行き場を失った観光客などのため、指定避難所のほかに、《観光客用避難所》として、そなえる。公民館、ダイナックスアリーナを順次指定しました。
9月6日から8日までの間、各避難所への観光客の搬送や生活支援、空路や鉄道の再開に合わせた搬送などを行っています。

避難所で生活を聞きました



北海道の観光振興への影響は大きく、北海道経済部観光局では、「観光消費の影響額を推計すると約292億円となる」と公表しています。(9月15日)
市内でも、地震の被害がほとんどなかった支笏湖温泉地区をはじめホテルのキャンセルなどが相次ぎ、市内観光施設や土産店などの客足に影響をおよぼしています。
全道的な観光消費の状況を考えると、北の玄関口・新千歳空港を要するまちとしての役割や意義をあらためて思い知らされます。

私と千歳市民との絆をくれた

宇佐美 一恵さん
愛知県一宮市在住
■旭川での営業のため、9月5日21時着の便で、単身、北海道を訪れ、台風災害と地震災害のために、10日の帰りの便までの間、千歳での避難生活を余儀なくされました。
そこで、千歳市民の方に温かいおもてなしをいただきました。6日の晩、隣で一緒に過ごした女性は、近所に住む73歳の一人暮らしの方で、真夜中の震災に対する不安から、避難所での寝泊まりをしていた方でした。余震におびえる思いを共有したこともあり、7日の朝、家まで案内され、温かいコーヒーを飲ませていただきました。初めてホッとした瞬間でした。その後、汗で気持ち悪いだらうからと、市内のスーパー銭湯(千歳乃湯えん)に、また、せっかくだからといって、道の駅のお土産屋さんにも車で連れて行ってくださったのです。悲惨な旅行ではあるはずが、かけがえない思い出と、私との方との絆をくれました。
千歳の皆さんの優しさに、いままでも以上に北海道が好きになりました。また、会いに来ます！

避難所でのたくさんの支援をありがとうございました
市の被災地支援活動 9月の災害 第1特集
大阪から観光に来て千歳中で過ごした皆さん



▲市の水道局職員による厚真町での漏水調査(9月14日)